

「第七回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」の 決勝開催（二〇一二年十二月三日）

▼日本銀行は、昨年十二月三日、大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第七回日銀グランプリ」キャンパスからの提言」の決勝大会を本店で開催しました。今回のテーマは、「わが国の金融への提言」。金融経済環境の変化などを踏まえつつ、自由に斬新な提言をしてもらいました。全国各地から一〇八編もの論文が寄せられ、書類審査の結果、五チーム（東京大、愛知教育大、東京大・京都大、明治大、東京経済大）応募受付順。以下同じ）が決勝に進出しました。また、惜しくも決勝進出には至らなかったものの、決勝進出チームに次ぐ上位にランクされた九チーム（早稲田大、専修大、山口大、日本大、創価大、沖縄大、中央大、明治大、法政大）が「佳作」に選定されました。

▼決勝は、各チームが審査員や観



工夫を凝らしたプレゼンテーション

戦者の前で工夫を凝らした一五分間のプレゼンテーションを行った後、審査員からの質問に答えるかたちで進められました。日本銀行の西村清彦副総裁が審査員長となり、外部からの審査員として、高須武男氏（経済同友会副代表幹事、バンダイナムコホールディングス取締役相談役）、秋池玲子氏（ボストンコンサルティンググループパートナー&マネージング・ディレクター）をお招きしました。日本銀行からは森本宜久、白井さゆり

両政策委員会審議委員も審査員として参加しました。

▼小論文の内容だけでなく、プレゼンテーションや質疑応答も含めて総合的に審査した結果、最優秀賞には、東京経済大学経済学部・経営学部チームの「『下三ヶ塔投資』が日本を救う！〜グリーンファン ドが照らす未来〜」が選ばれました。東京経済大チームの提言は、預貯金口座の端数下三ヶ塔の資金を、定期的かつ自動的に投資ファンドに振り替えることにより、資金を自然エネルギー事業に振り向けるというものです。審査員からは「小口化により幅広く資金を集めようとするコンセプトは珍しくないが、実現手法に斬新さがある」「IT技術を活用して投資家・ファンド間の双方方向のコミュニケーションを充実させる提案も効果的」「アイデアの有効性を一般消費者や学生に対するアンケートによって裏付けようとする取り組みがなされている」などの点が高く評価されました。このほか優秀賞二チーム、敢闘賞二チームを選出しました。

【最優秀賞】

●東京経済大チーム

「『下三ヶ塔投資』が日本を救う！〜グリーンファン ドが照らす未来〜」

【優秀賞】

●愛知教育大チーム

「先生のための金融教育（小学校編／中高編）」

●明治大チーム

「ソーシャルマネー・システムの構築〜よりよい社会を目指して〜」

【敢闘賞】

●東京大チーム

「東北フロンティアバンク―支援から手を取り合った成長へ―」



最優秀賞に輝いた東京経済大チームと審査員の皆さん

●東京大・京都大チーム

「中小企業向け融資電子入札システム（JFBID）の導入—中小企業と金融機関の相互的な発展のために—」

▼審査終了後、審査員の総評として「東日本大震災からの復興、電子マネーやスマートフォンといったIT技術の活用など、話題性に富むテーマも目立ち、バラエティが広がっている。また、提言の深みという点でも年々レベルアップしている」特に、この場に臨んだ



和やかな中にも審査員からするどい質問が投げ掛けられる



審査員長（西村副総裁）の講評

五チームの提言では、わが国の金融に関して問題意識を持ったうえで、アンケート調査や金融の実務家への聞き取り調査などを行っており、頭でっかちになり過ぎず、地に足の着いた視点から独自の提言に結びつけている」「プレゼンテーションにも、自分たちのメッセージをしっかりと伝えるための創意工夫がみられる。審査員から厳しい質問を受けても、自分たちの主張を展開しており、将来の日本を担う若者として頼もしい」といった評価が聞かれました。

▼日銀グランプリについては、日本銀行ホームページに専用コーナーを設けて、概要、決勝参加チ

ームの作品全文および審査員講評等を紹介しています。また、同コーナーでは、決勝大会の様態等を収録した動画（約四分間）も配信しています。

http://www.boj.or.jp/announcements/nichigin_gp/index.htm/

▼「日銀グランプリ」キャンペーンからの提言は、日本銀行の金融教育充実に向けた取り組みの一つとして、大学生の皆さんを対象に毎年行ってきたっており、来年度も開催予定です。全国の大学などで学ぶ皆さんには引き続き、斬新でユニークな発想を用いて挑戦していただけることを期待しています。

「企業物価指数の二〇一〇年基準改定に関する最終案」を公表（二〇一二年十二月十三日）

▼企業物価指数は、企業間で取引される商品の価格を日本銀行が調査し、それらを毎月集計して公表している統計です。「東京卸売物価指数」という名称で一八九七年に統計の公表を

開始してから今年で一六六年目を迎えます。

この統計では、五年に一度、調査対象とする商品や取引額を見直し、産業・貿易構造等の変化を的確に統計に反映させる「基準改定」を実施しています。

先般公表した、二〇一〇年基準改定に向けた見直し方針には、統計ユーザーの皆さまからさまざまなご意見をお寄せいただきました。最終案では、いただいたご意見を参考に決定した見直しの内容につき、①経済実態の確な反映、②統計ユーザーの利便性向上、③わが国公的統計の体系的な整備を意識した対応、④報告者負担の軽減の四つのテーマに整理してご説明しています。

▼統計ユーザーの皆さまにとってより便利に、そして身近にお使いいただけるよう、これからもさまざまな工夫を行ってまいります。

※詳細は日本銀行HPをご覧ください。

http://www.boj.or.jp/research/bp/ron_2011/ron11213a.htm/

編集後記

■今号では、白川総裁との対談に、^{ながやす}永易全銀協会長をお招きしました。バンカーとしてのさまざまなご経験を踏まえたお話に、わが国経済の中で銀行が果たしている役割を実感させていただきました。また、巻頭インタビューにて勝俣先生をお訪ねした水族館は、15年ほど前から子供たちを連れて何度も訪れている場所です。子供たちは海獣たちから元気をもらい、その子供たちの姿を見て、親も元気をもらってきました。時が経過し、子供たちは大きくなり、親は老年に近づきましたが、今でも親子ともども水族館が大好きです。(鮎瀬)

■ペリー上陸の地、那覇・泊地区を「^{とまり}まちま〜い」した。1853年、アメリカ艦隊司令官ペリーは、黒船を率いて浦賀（神奈川県）に現れ、江戸幕府に開国を迫った。黒船来航後、日本は幕末から明治維新に至る激動の時代に突入していく。

ペリーは太平洋を渡って来たと思いついていたが、実は違う。アメリカ東海岸を出発したペリーは、^{きぼうほう}喜望峰を回り、インド洋を経由してまず琉球を訪れている。琉球王国は困惑しながらもペリー一行を丁重にもてなしたという。浦賀に現れる約2カ月前のことである。ペリー艦隊は本土訪問後も琉球に滞在し、琉球は本土への中継点の役割を知らずも果たした。

常緑のガジュマル、湿気を帯びた濃密な空気、どこかエキゾチックな南国の町並み。今も変わらぬ沖縄の豊かな風土と人々の温かさは、長い航海に疲れたペリー一行を癒したに違いない。近代日本への歴史の転換点が、沖縄の地にその第一歩を記していたことに内心驚きつつ、外国人墓地に静かに立つペリー上陸の碑を訪ねた。本誌が発行される3月下旬、沖縄では大地が潤い始める「うりずん」の季節です。2012年春号をうりずんの南風に乘せてお届けします。(小野寺)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2012年春号
編集・発行人 鮎瀬典夫
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

貨幣博物館テーマ展

「版木からみた

江戸・明治期の銭譜」開催中!

五月六日まで

▼江戸時代以降、学者や収集家によって貨幣に関する研究が進められ、その成果は銭譜（銭貨を中心とした貨幣図鑑・参考書）としてまとめられました。銭譜は、一枚板に彫り込んだ版木から作られ、出版されました。

今回の展示では、貨幣に関する情報や知識が人々の間で共有される契機となった銭譜とその版木を

当館の所蔵資料からご紹介します。



『珍銭奇品図録』大村成富著 1817年（文化14）



『珍銭奇品図録』版木

※最新の開館情報は貨幣博物館HPをご覧ください。

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>

△通常の開館時間△

【開館時間】九時三十分～十六時

三十分（入館は十六時まで）

【休館日】月曜日、祝日（ただし土

曜日・日曜日と重なる場合は開

館、振替休日

【入館料】無料

【所在地】東京都中央区日本橋本石

町一―三―一（日本銀行分館内）

【お問い合わせ先】

〇三―三二七―三〇三七